

調査旅行記

シンクタンク日本 理事 林明夫

2025 年 5 月 26 日

NPO シンクタンク日本¹



1

NPO シンクタンク日本

2024 年 10 月、九州調査旅行に出かけました。大阪から長崎まで新幹線に乗り、さらに車で天草、長島町を経由して鹿児島まで巡る旅です。初めの目的地大阪では、久々に心齋橋筋や御堂筋を訪れ、昔と変わらぬ活気を感じました。大きなビルが立ち並ぶ一方で、裏通りには商店街や飲食店が並んでおり、大阪ならではの雰囲気が漂います。ランクの高いホテルや地下鉄が整備された便利さと、個性豊かな小さな個性的店舗が共存する様子が、大阪の人気の秘訣かもしれません。新大阪駅

も、リニューアルされた整然とした空間と、少し雑然とした昔ながらの大阪らしさが共存しており、まさに新旧の魅力が詰まっていました。

1 長崎

次の目的地、長崎へは福岡経由で新幹線を使いました。到着すると、新しい駅舎と町の雰囲気が融合して、街全体が生まれ変わったように感じられました。長崎市内は、山と海に囲まれたコンパクトな街で、路面電車が走る独特の風景が広がっています。出島やグラバー邸などの観光スポットも整備されていて、運河とその上にかかる橋が街並みに溶け込む景観がとても美しいです。運河沿いには県立美術館もあり、新旧の調和が取れた素晴らしい場所でした。ちょうど「おくんち祭り」の最終日で、異国情緒漂う行列や山車に出会うことができました。観光客向けの派手さというよりも、地元の人々が祈りを込めて迎える、平和と繁栄を願う祭りであると感じられました。祭りの最後の夜、「ヨイヤサー（皆さんに幸せあれ!）」と掛け声を上げる若者の薄っすらした涙が心に残りました。

2 島原

翌朝、島原の雲仙岳、原城跡を見学し天草で一泊、翌日、旅の第一の目的である鹿児島県の長島町を訪れました。成竹理事の生まれ故郷で、長年天草との架橋建設が課題になっています。長島町の発展に資する提案書を作成することが、今回調査のメインテーマです。長島町は日本第4位の出生率を誇り、ブリ養殖日本一や「赤玉じゃがいも」でも有名な地域です。町の役場の方に高い出生率についてお話を伺ったところ、若者が仕事を見つけ、生活環境も整っているため、地元に戻ってくることが多いそうです。金沢市との養殖鰯の提供を通じた連携や、「鰯王」ブランドでEUへのブリの輸出などにも力を入れており、こうしたグローバルなブランド展開という先進的な取り組みが、地域全体に活気をもたらしているように感じました。

3 鹿児島

最後の訪問地鹿児島市では、明治維新を成し遂げた人々の生地や記念資料館を訪れました。行き先が分からないと観光ボランティアガイドの方が、親切に同行してご案内いただきました。鹿児島市も長崎と同様、路面電車が走っており、どこへ行くにも便利です。私がかつて

住んでいた横浜市では、交通渋滞を理由に路面電車が廃止されてしまいましたが、鹿児島では今も現役で、運転手不足でバスが減便されている昨今、利用者にとって頻繁に走る路面電車は、とても便利で環境にも優しい移動手段だと改めて実感しました。これからも多くの都市で路面電車が広がってほしいものです。

ところで、長崎から天草、長島町を経て鹿児島市へと車で向かう途中、清潔に保たれた街並み、休憩エリア、道路が大変印象的でした。空き缶やペットボトル、吸い殻などのゴミがほとんど見当たらず、長崎市から天草市、長島町、鹿児島市に至るまで、その清潔さが続いていました。鹿児島市では清掃員の方を見かけ、地域の方々が一体となって街をきれいに保っていることが伺えました。インバウンド客によるごみ捨て問題等が指摘されていますが、多くのインバウンド客が訪れこれらの地域では、清潔な街並みが続いていました。清潔さは、旅行者にもすがすがしい心地よさを、あたえています。スイスに旅行した時の「ごみのないこと、トイレに管理人がいて、きれいで安心なこと」を思い出しました。

旅を終えて感じたのは、地方都市にみなぎる活力です。「失われた30年」とも言われ、少子高齢化が進み、経済的豊かさの指標の指標である国民一人当たりGDPはほとんど伸びず、欧米との格差は大きく広がるとともに、韓国や台湾に追い越されようとしています。その一方で、インバウンドの効果もあって、歴史、文化、伝統を活かし、新しい産業・観光振興と暮らしやすい街づくりの取り組みを進めている地方は、活気と笑顔と親切と美しさを実感しました。経済だけではない「暮らしの豊かさを実現する地方創生」は、国の政策を土台に、個性ある地域の自主性や自律性が鍵になるのではないかと思います。

地方の現場で見たのは、言葉に頼らない真の再生力。明るく自律した未来を目指し、工夫と努力で切り開く地方の力が、日本の未来を支えていくのだと感じた旅でした。

4 長島町のさらなる発展を引き出す提案

長島町のさらなる発展を引き出す提案として、地元の産業・文化を一層引き立てつつ、広域連携やインフラのPRを強化するアイデアを以下に挙げます。

4.1 地域ブランドを強化する「交流型イベント」

長島町は「ブリ王」や「赤玉じゃがいも」などのブランドが既に存在していますが、地元住民と来訪者の交流が深まることで、ブランド

の価値がさらに高まります。例えば、地元の養殖ブリを使った「ブリ・グルメフェスティバル」を定期的で開催し、漁業体験や試食会を通して、都市部から訪れる観光客にも長島の産業に触れてもらいます。観光だけでなく「食育」としてのイベントにすれば、教育目的での来訪も促せるでしょう。台湾の夜市を誘致し、TSMC の関係者やインバウンド客に来ていただくことや台湾の夜市で「ブリ王」を PR することも考えられます。

4.2 「橋プロジェクト」を全国にアピールするドキュメンタリー制作

新たに橋を架ける際には、その橋がどれほど地域の未来に役立つのかを全国的に訴求する PR 動画の制作を提案します。橋が完成するまでの道のりや地域住民の思い、経済効果を描くドキュメンタリーやインタビュー形式で、地元住民の視点と、町が目指す未来を伝えることで、外部からの支援や寄付を募ることも可能です。SNS や YouTube で配信し、観光地としてだけでなく「未来の先進地域」としての認知も目指します。

4.3 「地方発の未来モデル」としての発信

長島町の高い出生率や豊かな自然を活かし、持続可能な町のモデルとして発信する方法もあります。たとえば、移住者向けに生活体験プログラムを充実させ、地元の仕事体験や田舎暮らしのワークショップを提供します。高齢化や少子化で悩む地域へのロールモデルを長島町が提示することで、他の地域からも注目され、連携の機会も生まれるでしょう。

4.4 「ふるさと納税」特別キャンペーンと地域復興支援

ふるさと納税を活用し、橋建設やその他のインフラに直接貢献できる「ふるさと納税特別キャンペーン」を提案します。寄付者には限定の「長島体験ツアー」や「ブリの漁業体験」などを用意し、ふるさと納税が直接町の未来に役立つことを強調します。全国の支持が集まると、橋建設の進展が早まり、地域活性化の良い循環が生まれます。

4.5 「エコツーリズム」を通じた地域と自然の調和

さらに自然を活かしたエコツーリズムを導入し、観光客が長島町の海や山を巡り、地元の豊かな生態系に触れられる環境を整えます。自

然保護や環境教育も兼ね備え、地元住民もガイドとして関わる形にすれば、自然と観光が共生できる長島ならではの体験を提供できます。

こうした施策によって、長島町は地域の魅力をより広くアピールできるだけでなく、橋建設のような大規模プロジェクトも注目されることで、地域への支援が集まりやすくなると考えられます。